

地域活動支援センター事業

やまなみソフトバレーボールチームが中四国大会出場!!!

□第19回全国障がい者スポーツ大会（中国・四国ブロック）

令和元年5月18日19日、香川県善通寺市市民体育館で、障がい者スポーツ大会が開催されました。

やまなみからは、6名が県代表に選出されており、徳島県内の他チーム6名と合同での出場となりました。

この大会に挑むまで、何度も練習会を開催しており、チームとしてモチベーションを上げつつ、技術もチームワークも良くなっていましたが、一日目の1回戦目で強豪岡山県と対戦、1セット目「25-15」2セット目「25-20」で敗戦してしまいました。

二日目は、交流試合として島根県と対戦し、非常に白熱した戦いとなりました。

今回の大会では、全体のチームワークがアップして、メンバー同士の声掛けや、お互いのフォーメーション確認など細かい部分が強化出来ており、次に繋がる経験ができたと思います。

今回は、開催場所が近いこともあり、やまなみからも職員が応援に駆け付けることができ、メンバーの勇姿を見ることができました。

次回は更なる飛躍を見せてくれることを期待しています。



【開会式の様子】



【白熱したプレー場面】



令和元年5月18日（土）、秋田病院主催の運動会に参加しました。

当日は一時風が舞う場面もありましたが、程よい曇り空で気候も涼しく運動会日和となりました。今年は参加者も多く、利用者20名、職員3名でした。

今回初めて参加された方も、自主的に出場種目を決め積極的に取り組まれていました。

その中でも、毎年行われている「着付け競争」の中で、理事長・院長率いる「オールブラックス」チームVS新生四国大学7人制女子ラグビー部「セブン・イーグレッツ」との迫力ある親善試合が行われ、会場は一気に盛り上がりました。

例年、運動会に招待頂き、各関係者の方々のお声かけもあり、やまなみや高友利用者の笑顔あふれる場ともなっていることを実感しました。



「某テレビ番組のマスコットキャラクターからツッコミをされる理事長」



「紅白対抗綱引き」



「紅白玉入れ」

「やまなみ作業紹介」「樹の貼り合わせ作業」

今回は、ワークサポートやまなみで実際に行われている作業についての紹介をしたいと思えます。

「樹の貼り合わせ作業」とは、紙のように薄くスライスされた板を規定の枚数貼り合わせる作業で、約10年ほどやまなみで取り組んでいます。材料が非常に薄く破れやすい為、一枚一枚丁寧に貼り合わせる作業は細心の注意が必要となります。その様な中でも、利用者さんは日々の作業を積み重ねて技術の向上を目指しています。

やまなみで貼り合わせた薄板は、製造先の工場に納品し、加工され、壁紙やノートの表紙、のし袋などの雑貨に使用されています。壁紙は有名なホテルや広島駅ekieでも使われています。

今回、製品の取り扱いをされているご担当者の方から、たくさんお話を聞かせて頂く事が出来ました。



【貼り合わせ作業の様子】



【壁紙に加工された製品】



「広島駅 ekie」

【取引先ご担当者】

- Q. やまなみ利用者が携わることへの不安はありましたか？
 A. 不安は少しもありませんでした。なぜなら、初めに貼って頂いた製品の仕上がりが良く、クオリティの高いものだったからです。
 それに、今まで貼り合わせたものに対するクレームは一度も受けたことがないですよ。
- Q. やまなみで貼り合わせた製品はどのような場所に使用されていますか？
 A. 不燃を求められる非住宅施設（公共施設）や有名なホテル、広島駅エキエ（新たに誕生するショッピングモール）など、様々な場所に使用されています。すぐ目に入るところにもたくさん貼られていますよ。
- Q. 実際に貼り作業をされている方々へ一言お願いします。
 A. 販売に関った商品をどのように貼っているのかは、毎回私自身も見たいと思っています。それは作業をしている利用者さんと同じだと思うので、いつか一緒に見に行きたいですね。

【製造元 ビッグウィル 近藤社長】

- Q. 何故この仕事をはじめたのですか？
 A. 地域社会の充実、福祉の充実を目指し脱サラをして取り組もうと決めたからです。
- Q. 障害者支援施設とタッグを組んで仕事をしていく事に不安はありましたか？
 A. 元々福祉施設で働いていた経験から、多少の知識もあり、最初から不安に思うことはなく、むしろ必ず成功するとの確信がありました。
- Q. 今後どのような会社にしていきたいですか？
 A. もっともっと営業をして多くの企業の方々に福祉を理解してもらい、点から線へ、そして面になっていく、ひとつのチームになるような会社にしていきたいです。



一枚一枚丁寧に貼り合わせています。

